

研究主題 知識・技能の活用を図る学習活動に関する 指導展開例の作成

小学校4教科(国・社・算・理)
中学校6教科(国・社・数・理・英・**家**)

【研究総括担当者】 佐藤 玄吉 齊藤 義宏
【技術・家庭科担当者】 高橋 恵美
【この研究に対する問い合わせ】 TEL 0198-27-2814 FAX 0198-27-3562
E-mail kagaku-r@center.iwate-ed.jp

1 はじめに

学習指導要領改訂後、「活用」というキーワードが取り上げられていますが、活用を意識した授業とはどのようなものなのでしょうか。

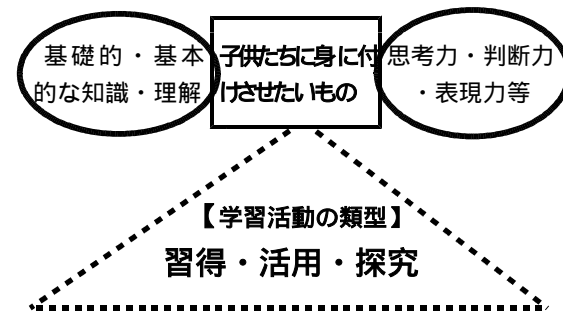
本項では、活用を図る学習活動の考え方や指導方法等を追いながら、現在当センターが作成している指導展開例について紹介します。

2 「活用」をこう捉える！

(1) 「活用」は学習活動の類型の一つ

今回の学習指導要領の改訂では、思考力等を育成するための手立てとして、「習得・活用・探究」という学習活動と学習の流れが規定されました。この規定では、児童生徒に身に付けさせたいものは「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」であることを前提とした上で、「活用」はあくまでも知識及び技能を活用する(考えながら使う)という学習活動の類型の一つとして示されています。表現を変えれば、活用は目的ではなく、課題解決する過程において、思考力等の力を身に付けさせるための方法・手段になります。

習得・活用・探究についての考え方(イメージ図)



(2) 「活用」は指導方法を見直すチャンス

課題を解決するために知識・技能を活用する場合には、ある単一の知識や技能だけを用いても課題を解決するには至りません。児童生徒が、観察・実験やレポートの作成、論述といった学習活動に取り組む際に、自らが既に持ち合わせている知識・技能を使える状態にするとともに、周りの人や書物といった資源に近づき実際に利用する必要があります。このような学習活動の質が、学習成果に影響を与えられと考えられます。

「活用」という学習活動について、「今までもやってきている」という先生もいれば、まったく新しい課題と受け止めている先生もいると思います。いずれにしても、授業とはいったいなんなのかということを確認する機会であることは間違いありません。私たち教師にとって自分たちの指導方法を見直すチャンスと捉えていきましょう。

(3) 探究活動をヒントに指導方法を改善する

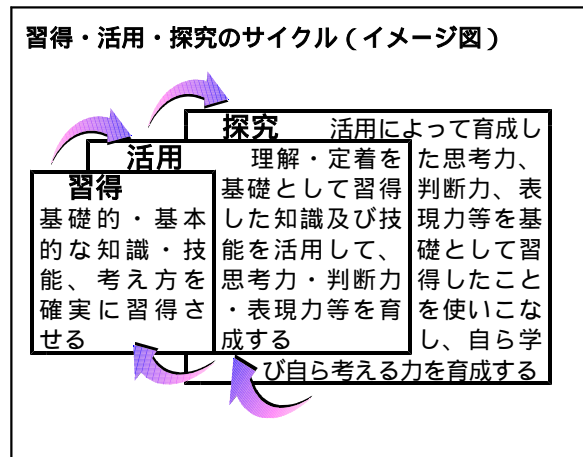
では、具体的に指導方法をどのように見直して、改善を図ればよいのか。ここでは、教科指導の最終目標である「探究的に学び続けようとする指導」という側面から考えてみます。探究活動については、学習指導要領解説総合的な学習の時間編でプロセスが示されているように、課題を見付けることに始まり、その問題の解決のためにどのような情報が必要なのか、それはどうやれば収集できるのかについても考えた、判断しなければならなくなります。さらに、

考えをどのようにまとめ、表現すればよいのかについても考え、他者との情報交換を効果的に行うことも必要になります。このプロセスに指導方法の改善へのヒントがあります。前述したように、思考力等を育成するための手立てとして、「習得・活用・探究」という学習活動と学習の流れが規定されたことを考えれば、当然、探究活動のプロセスが活用を図る学習活動にも適用され、接続されていくことが望ましいと考えられます。但し、前記したプロセスの全てを備えることを想定する必要はありません。単元を見渡し、「なんのために、どの時間のどこで、なにを使って、どのように知識・技能の活用を図る学習活動をするのか」「その結果、児童生徒はどのようになればよいのか」ということを見直しの視点としたうえで、探究活動のプロセスの個々の学習活動を効果的に位置付けていくことが改善につながります。

(4) **授業構想の留意点は・・・**

「習得・活用・探究」は学習活動の類型を示したものであり、一体のものとして捉えることが大切です。三者の時間的、量的、内容的な枠を決めることが大事なのではなく、バランスよく取組むことが優先されなければなりません。このことは、単元構想の必要性の根拠となります。児童生徒の学習は、教育課程に基づく指導計画に沿って一時間一時間の授業によって進展していきます。各時間や各単元の指導内容は系統や発展のある計画の基に位置付けられていますから、各時間の指導は、常に新しいものを学ぶのではなく、何らかの意味でこれまでに学習したことの続きや発展として学ぶこととなります。つまり、習得した知識・技能をつなげ活用していくこととなります。このことを児童生徒に意識させ、活用のねらい、対象、方法、及び活用することによって生み出される良さなどを強調し、児童生徒が今後、知識・技能を意欲的に活用していこうとする態度を育てていくことが大切です。その意味からも振り返りの場の設定と意義を大事にしたいものです。また、習得・活用・探究を一方通行の過程として捉えたり

段階的に捉えたりするのではなく、活用することで確かな習得がなされたり、探究的な活動の中で習得と活用が繰り返されたり等、様々なプロセスがあることを確認する必要があります。例えば、活用することにより「前にやった勉強はそういうことだったのか」という、習得すべき知識がより深く理解されるということもあります。このようなサイクルを指導計画に意図的にのせていきます。



(5) **言語活動を踏まえる**

実際の授業の指導にあたっては、知識・技能の活用を図る学習活動は、言語によって行われるものであることから、全教科にわたって、充実が図られた言語活動を踏まえて取組むことが重要です。特に、言語活動としての「記録、要約、説明、論述の能力」が問われており、中核となる学習活動としては、「説明する」ことが重要となります。「説明する」ことができるということは、対象となる学習内容を理解し、それについて考え、その考えを基に表現できるということです。ここに、論述する能力が育成されるものと考えられ、今回の学習指導要領の改訂で充実すべき重要項目の第一に、「言語活動の充実」が挙げられている根拠と捉えることができます。詳しくは、「中央教育審議会（答申）（平成20年1月27日、pp.53～54）を参考として下さい。学習指導要領で求められている「言語活動の充実」にかかわる内容が掲載されていません。

3 指導展開例について

現在作成中の指導展開例では、前述した「活用」のとらえに基づき、技術・家庭科の特徴を踏まえ、目標・教材分析、単元開発、授業設計等に「知識・技能の活用を図る学習活動」という視点での分析を提示し、漫然と授業を概観する分析から、目的を明確にした授業分析へ質を高めていく提案をしていくこととします。

(1) 指導展開例の構成

技術・家庭科における指導展開例においては、下記の共通項目を設定し、構成しています。

知識・技術の活用を図る学習活動の考え方

- 1 教科における「活用」の基本的なとらえ
- 2 「活用」を意識した授業を展開するときの留意点

題材及び単位時間の構想

- ・ なのために「活用」を図るのか
- ・ なにで「活用」を図るのか
- ・ どのように「活用」を図るのか
- ・ どのようになればよいのか
- ・ どのようにつながったか

指導展開例（題材構想表・単位時間展開）

(2) 指導展開例の概略

指導展開例の概略を、技術・家庭科を例にして紹介します。

技術・家庭科における「活用」の考え方

- 1 「活用」の基本的なとらえ

技術・家庭科における「活用」に関する学習活動

 - (1) 必要な情報や事実を読み取る活動
 - (2) 実習等の結果を整理し考察する活動
 - (3) 言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりする活動
- 2 「活用」を意識した授業を展開するときの留意点

「基礎的・基本的な知識・技術」の「習得」と「活用」の重視

「実践的・体験的な学習活動」の一層の充実、言語活動の充実

以上のような、技術・家庭科における「活用」の考え方を、単元及び単位時間の構想に反映させ、指導展開例を作成しました。

題材及び単位時間の構想

○技術・家庭科における題材構想のフレーム

①題材名	目標
②「既習学習内容」と「今後の学習内容」と、本題材との関連を示しています。	③目標、評価規準
	評 関心・意欲・態度
	価 工夫・創造
	規 生活の技能
	準 知識・理解
時間 第1時	
主題名	④学習内容
学習内容	基礎的・基本的な知識・技能を示しています。
導入	
展開	⑤活用場面 枠内に「活用」を図る学習活動の内容を示し、枠の位置で単位時間の内の時間帯を示しています。
終末	
生徒の目指す姿	⑥生徒の目指す姿 活用を図る学習活動を通して目指す生徒の姿を示しています。

○技術・家庭科における単位時間構想のフレーム

本時の概要 授業の大まかな流れを示しています。	本時のねらい 活用方法や言語活動などを含めた授業のねらいを示しています。	既習事項	指導のポイント	今後の学習
指導展開例	どのような学習活動か指導展開例で示しています。		活用場面の指導のポイントと、既習事項と今後の学習とのつながりを明らかにしています。	
導入	活用場面①		設定した活用場面について説明しています。経緯は次の指導のポイントを参照します。	ワークシート例
展開			授業で用いるワークシートの例を添付させていただきます。	
終末				

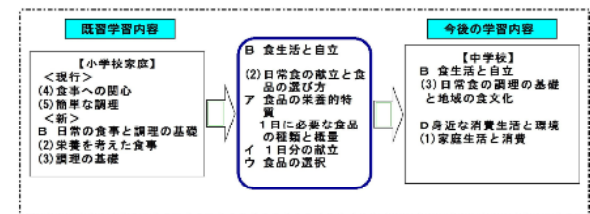
※活用場面が2つの場合はワークシート例を2例を添付しています

技術・家庭科における指導展開例の実際

ここで示す指導展開例は、「B 食生活と自立」の(2)日常食の献立と食品の選び方（7時間扱い）の指導計画のものです。食品の栄養的な特質や食品の選択について学び、知識・技術を活用してポスター作成を行います。

【題材構想】

既習事項と今後の学習内容（上） 目標と評価規準（下）



目標	中学生の1日分の献立作成と食品の分け方に関する学習を通して、栄養を考えた食事の計画と食品の選択についての基礎的・基本的な知識及び技術の習得するとともにこれからの健康的な食生活を工夫する。
高評	生活や技術への関心・意欲・態度 ○食品の栄養的特質に関心をもち、食品群の分類に意欲的に取り組む。 ○食品の安全・安心に関心をもち、自分の食生活に生かそうとする。
価	生活を工夫し創造する能力 ○献立作成や、食品の選択の学習を通して、健康で安全な食生活を工夫する。 ○おススメポスターの作成する際、図などを用い、構成や内容など自分の考えがわかり手に伝わる表現を工夫する。
規	生活の技能 ○食品をその栄養的特質により、食品群に分類することができる。 ○中学生に必要な栄養量を満たす1日分の献立を作成することができる。 ○用途に応じた食品の選択ができる。
準	生活や技術についての知識・理解 ○食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量を理解する。 ○食品の保存方法と保存期間について食品の腐敗と関連付けて理解する。

【題材構想から単位時間の指導展開例へ】

単位時間の指導展開例（学習活動と活用場面等）

習得と活用のバランスに配慮し、活用を図る学習活動が有効と思われる学習活動を抽出し、その時間の指導展開例を示すこととしました。

題材の指導計画

時間	第5時	第6時	第7時
主題名	食品を選択するときのポイントは	食品の腐敗と保存方法	「食品選択」おすすめポスターを作ろう
学習内容	生鮮食品、加工食品表示調べ	食品の腐敗保存方法 食の安全・安心	用途に応じた食品の選択
導入 課題把握			
展開 課題解決	食品の表示から必要な情報を読み取り、表示の内容を理解する。生鮮食品と加工食品の表示を比較する。 →活用(1)	食の安全・安心の資料を読み、自分の考えたことをまとめ表現する。 →活用(1) 活用(3)	食品を選択する際のポイントについて、自分の考えを言葉や図表を用いてわかりやすくまとめ、おすすめポスターを作成する。 →活用(3)
終末 振り返り			
生徒の 目指す姿	様々な食品の表示から必要な情報を読み取り、表示の必要性を理解できる。	食の安全・安心の資料から、食を取り巻く問題を意識し、自分の食生活と関連付けて考えることができる。	食品を選択するポイントについて、表示やマーク、自分の考えなどから、図などを用いてわかりやすくまとめることができる。

本時の概要

1 2 3 4 5 6 7

本時は、第5・6時で習得した食品の選択にかかわる知識・技術を活用し、ポスターを作成する授業である。図などを用い、自分の考えがより理解されるように、構成や内容、表現の方法などを吟味する。構想から作成まで、その過程全体において言語活動の充実を図りたい。

本時のねらい

- 既習事項を活用し、「食品選択おすすめポスター」(A4)を作成することによって、食品を選択するポイントを理解し、用途に応じた食品の選択ができるようにする。
- 自分の考えを図などを用いて、読み手に内容が伝わりやすい表現を工夫させる。

指導展開例

段階	学習活動
導入	1 前時の振り返りから、食品選択のかかわる課題を想起する。 2 本時の課題把握 「食品選択」のおすすめポスターを作ろう
展開	3 「食品選択」のおすすめポスターの内容とまとめ方を考える。 【計画】 ①自分のテーマを設定する ②構成を考える ③学んだ情報(既習事項)を取り出す ④内容を整理する ⑤作成の手順の決定
閉	4 ポスターを作成する。 【実践】 ①下書き ②清書 ③仕上げ
終末	5 出来上がったポスターを振り返り、わかりやすいものになったか、自分のテーマに合っているかを評価する。【評価】 6 次時は調理計画について学習することを知る。

ポスターの例

作鮮食品を選ぶポイント

この表示に注目!

活用場面①
既習事項を活用し、「食品選択おすすめポスター」(A4)を作成する。
作成にあたっては、図などを用い、自分の考えがより理解されるように、構成や内容、表現の方法などを吟味する必要がある。
活用(3)ウ・エ

題材の指導計画では、活用の場面を毎時間位置付けていますが、各校の実態に合わせ、参考にさせていただきたいと思います。

単位時間の指導展開例（活用場面 指導のポイント）

関連する既習事項	活用場面① 指導のポイント 「食品選択」のおすすめポスターを作ろう	今後の学習へのつながり
<p>【小学校家庭(新)】 B 日常の食事と調理の基礎 (3) 調理の基礎 「日常よく使用される食品」 D 身近な消費生活と環境 (1) 物や金銭の使い方と買い物 「日付など簡単な表示」</p> <p>【中学校家庭分野】 B 食生活と自立 (2) 日常食の献立と食品の選び方 「生鮮食品」 「加工食品」 「食品の選択」</p>	<p>1 計画を立てるときの手順 ①自分のテーマを設定する →前時に予告しあらかじめイメージさせておく ②構成を考える →限られた作成時間のため2~3個にする ③学んだ情報(既習事項)を取り出す →ノートや、ワークシートにチェックさせる →生徒が、さらに多くの情報を求める場合もあるので参考資料などを用意するとよい ④内容を整理する →記事の内容を決める、整理する ⑤作成の手順の決定 →図や、メインの内容から始めるとよい</p> <p>2 作成するときのポイント ①下書き→大まかな記事の位置を決める ②清書 →わかりやすい表現を意識して ③仕上げ→読みにくいところはないか</p> <p>3 作成後の利用方法 作成したポスターは教室・廊下などに掲示し、相互評価を行うことで、学習活動の共有化やお互いに学び合うことができる。</p>	<p>B(3) 日常食の調理と地域の食文化 ○魚・肉・野菜の見分け方</p> <p>D(1) 家庭生活と消費 ○生活に必要な物資・サービスの選択</p>

4 おわりに

作成中の指導展開例は、「活用を意識した授業」をどのように作っていけばいいのか、授業者のイメージづくりを支援するものです。

現在、技術・家庭科の事例を増やしております。今後、当センターWebページに、指導展開例集として掲載しますので、ご活用下さい。